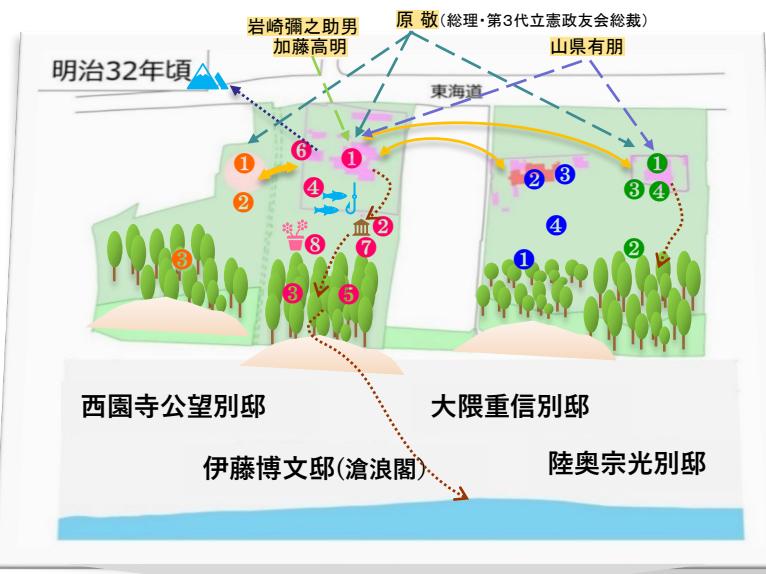


● 邸宅での過ごし方の整理（明治以降の積層する歴史の整理）

- 計画地における先人たちの大磯での暮らしや、交流に関するエピソードから、土地利用状況を図示化。
- 四賢堂の痕跡や松林の散策など、先人たちの大磯での暮らしを想起させる空間形成を図る。



年代	旧滄浪閣（伊藤邸跡・旧李王家別邸）			西園寺別邸跡・旧池田邸			旧大隈別邸・旧古河別邸			陸奥別邸跡・旧古河別邸		
	所有	使われ方	建物・庭の様子	所有	使われ方	建物・庭の様子	所有	使われ方	建物・庭の様子	所有	使われ方	建物・庭の様子
明治 27												
明治 29	伊藤博文	① 僅かな休暇や病氣療養に一時帰る英気を養う（読書、囲碁、名刀の手入れ等） ② 四賢堂の円座に座って考え事をした ③ 散歩好きで松林を抜けて浜にも度々散歩 ④ 孫と庭池で釣りを楽しむ ⑤ 漁夫を邸前の松林に集め、酒盛り、歓談 ⑥ 公私の別なく訪問客と交流（町民や町の小学生等も） ⑦ 李根（李王家）との交流	● 滄浪閣完成（西洋館は後の増築） ● 黒塗りの門、続き長屋、小門あり ● 西洋館：公的な機能 ● 和館：居宅 ⑥ 楼上から富士山が見える（気に入っていた） ⑦ 梅林の中に「四賢堂」を作り、東西の両壁に四人の肖像を高く掲げた ⑧ 庭に梅子夫人の広い温室を建てる									
明治 30	本邸			西園寺公望別邸	① 伊藤の誘いで隣地を買った「隣荘」と呼ばれた ② 伊藤が晩酌にきた ③ 原敬ら立憲政友会創立につながる政治的人脈を築く	● 垢抜けのした百姓家の風情の建物 ③ 庭は狭く、梅の木が数本と、竹の植込み、高い砂山まで続いた松林が、子供たちの遊び場だった	大隈重信別邸	① 松の苗木を大量に購入し、敷地に植樹 ② 16畳の「富士の間」と10畳間をつなげてよく大宴会を開く	● 吉川邸を購入し、浴室棟、北西座敷棟の大規模改修を行う ④ 足の不自由な大隈に配慮し、暖炉があった ● 「神代の間」は書斎	陸奥宗光別邸	● 病にて療養 ① 山県有朋、伊藤博文、原敬、西園寺公望との交流 ● 「暮寒録」を仕上げる ② 松林の中で家人らと憩う	● 別荘を建築 ③ 寝室に好きな朝顔の鉢植を並べる
明治 32	本邸			池田成彬別邸	● 西園寺から話を持ち掛けられ隣荘を譲受ける ● 訪問客で門前市をなす ④ 吉田茂が政治の相談に訪問 ● 散歩が趣味 ● 小汀利得、榎山愛輔らとの交流	● 関東大震災で麻布本邸を焼失したことを機に首禰中條設計事務所へ設計を依頼	古河別邸	④ 市兵衛が購入後、毎夏、家族を連れて避暑した ● 市兵衛の没後、潤吉（陸奥の次男）、虎之助、従純に引き継がれる ● 海で泳いだ（虎之助）		古河別邸	● 市兵衛の没後、古河潤吉（陸奥の次男）が病氣療養のために使用 ● 原敬との交流	
明治 34	本邸			別邸								
明治 37	本邸			別邸								
明治 42	本邸	● 伊藤博文暗殺後、梅子夫人が居住	● 四賢堂に伊藤を祀り、「五賢堂」とし、庭の隅に移動	別邸								
大正 6	本邸			別邸								
大正 10	本邸	● 博文との縁から滄浪閣を譲受ける	● 関東大震災で倒壊	別邸								
大正 12	本邸	● 伊藤時代と同じく「滄浪閣」と呼称	● 旧材を利用し再建 設計者：中村與資平 施工者：多田工務店	別邸								
昭和 元	本邸			別邸								
昭和 5	本邸			別邸								
昭和 7	本邸			別邸								
昭和 20	GHQ	GHQへ接收	① 百数十本の松を伐採（戦時中）	別邸								
昭和 21	本邸	● 李王家からの申入れで購入 ⑩ 毎朝五賢堂で座禅を組んで無の境地に遊んだ ⑪ 広い邸内の松林をそぞろ歩き、池田を訪問	● 伐採跡地の砂地にさつま芋三千本を栽培 ● 書斎から老松の中にユーカリの高木が見えた	別邸								
昭和 23	本邸			別邸								
昭和 26	民間事業者			別邸								
昭和 27	民間事業者			別邸								
昭和 29	民間事業者	● 宿泊施設として開業	● 増築	別邸								
昭和 30	民間事業者			別邸								
昭和 31	民間事業者			別邸								
昭和 35	民間事業者			別邸								
昭和 39	民間事業者			別邸								
平成 4	民間事業者			別邸								
平成 7	民間事業者			別邸								
平成 19	民間事業者			別邸								
平成 20	民間事業者			別邸								
平成 30	民間事業者			別邸								

積層する歴史の概要

- 明治期
 - 伊藤博文は、本邸として、政治家や地元民など多くの人が訪れる交流の場。
 - 大隈重信と西園寺公望は、人脈づくりや社交のための別邸として、陸奥宗光は病氣療養の別邸として利用。
- 昭和期
 - ゆかりの人物に引き継がれ、本邸や別邸として利用。関東大震災を機に旧大隈別邸以外の建物は増改築されている。隣荘の池田成彬と滄浪閣の榎橋渡、近隣の吉田茂など、昭和期においても政財界人の交流が行われていた。
- 現在（平成）
 - 明治期の建物は旧大隈別邸のみ。滄浪閣を除いて松林が現存。旧古河別邸は迎賓施設として、今日まで良好な状態で保存されてきた。

[凡例] → : 現存する建物